

静脩

1987年3月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 23, No. 3

附属図書館における電算化〔I〕

1 はじめに

昭和55年学術審議会が答申した「今後における学術情報システムの在り方」の方針に基づき、本学では、昭和57年7月関係部局の協力を得て、「図書館業務機械化準備作業班」を設け、システム分析および実務的な実験を行った。その結果、次の基本方針を盛り込んだ冊子を翌年5月「京都大学図書館業務機械化概要書」としてまとめ、地域センター館としての方針を固めた。

- ①学術情報並びに資料の迅速、的確な提供システムの形成を図ると同時に、これを支える日常業務処理の効率化を図る。
- ②学術情報システム構想の一環である、地域センター館として、近畿北部地区大学と連繋するネットワークシステムを構築する。
- ③図書館業務機械化システムパッケージ化をめざした標準システムを構築する。

一方、近畿北部三府県七国立大学（滋賀大学、滋賀医科大学、京都大学、京都工芸繊維大学、京都教育大学、奈良教育大学、奈良女子大学）では図書館業務の機械化ネットワーク実現のため、全体的な方針および管理的な問題について検討し、相互の連絡、調整を図ることを目的に、昭和56年4月、「近畿北部地区国立大学図書館機械化ネットワーク協議会」を組織した。この協議会のもと

に「開発委員会」を設け、3年間にわたり検討を重ね、次のような合意を得た。

- ①閲覧貸出業務は各大学の個別処理とする。
- ②各大学の日常業務を処理するサブシステムは京都大学で開発または採用したものを使用する。細部については、各大学の実情に適合するよう変更できるものとする。

こうして電算化の準備を進めるなか、昭和59年度、本館に電算機導入の予算が認められた。本館では、先述の基本方針ならびに協議会での合意事項に沿って、慎重に機種選定を行った結果、ホストマシンとして富士通㈱のFACOM M-340を、端末機として、パーソナルコンピュータFACOM 9450 IIを採用することになった。同時にホストのDBMSはAIM/RDBを、図書館システムパッケージはILIS (Integrated Library Information System)を採用することになった。

昭和59年7月からメーカーと具体的な検討を始め、同年10月機器搬入、翌年1月稼働の運びとなったが、当時、学術情報ネットワークの中核機関である、東京大学文献情報センター目録所在情報システムについて、メーカーと議論するには、入手できる情報があまりにも少く、目録管理の開発は大巾に遅れた。しかし、60年7月には、学術情報センター（当時の東京大学文献情報センター）

と DDX パケット交換網により接続を完了，センターの目録所在情報サービスを利用できるようになった。当時は，学術情報センターにデータを登録するのみの，いわゆる UIP Case 1 だったが，10月にはセンターに目録を登録すると同時に，ローカルコマンドにより，本館のホストマシンにもデータを取り込む UIP Case 2 にレベルアップした。こうして翌年 2 月までは教育モード（登録したデータは毎週木曜日にすべて削除される）により運用していたが，3 月から業務モードに切り替え，センターへの目録情報の登録を始めた。現在では目録端末は FACOM 9450-Σ にレベルアップ，学術情報ネットワーク網（新高速デジタル回線網）を利用して，端末をフル稼働させ，データ入力に励んでいる。

また，端末校のうち京都工芸繊維大学が，昭和 61 年 3 月から，滋賀医科大学が 62 年 2 月から当初の計画どおり，本館のホストマシンとの間を専用回線により接続，学術情報センターの目録所在情報サービスをはじめ日常業務処理が可能となった。前者はすでに業務モードによる運用を始めており，後者も新年度の運用開始をめざし，準備をすすめている段階である。

なお，本館では昭和 59 年 4 月の新館開館と同時にミニコンピュータ FACOM V-830 を導入，上記システムに先行し独立した閲覧貸出システムを開発した。翌 60 年 4 月からは，本学教養部図書館の閲覧貸出業務も同機で処理している。

以下に現システムの概要を紹介し，次号以降に各サブシステムの詳細を掲載する予定である。

2 システムの概要

1) システムの特徴

①分散システムの採用

本学は 10 学部（教養部を含む），27 附置研究所／センターによって構成され，部局図書室は 55 を数える。当然各図書館・室における選書，発注，検収，目録，閲覧は独立して処理されている。その上学術情報ネットワークシステムの地域センター館としての機能を果たさなければならない本館では，近い将来，端

末校と学内あわせて 50 台の端末が同時稼働することを想定，ホストマシンへの負荷をできるだけ少くするため，パーソナルコンピュータによる分散処理システムを採用した。そのためホストマシン停止時でも端末側にあるデータの処理，例えば雑誌の受付等を行える。また，接続端末（同時アクセス）が増加してもレスポンスタイムに影響がでない等の利点がある。反面，全体的にみて集中処理に比べレスポンスは遅いのが難点である。

②パッケージシステムの採用

「地域センターにおける処理ソフトウェアは基本的には標準化された共通ソフトウェアであって，端末館は，ソフトウェアの新規開発なしに機械化システムに移行できる」（『大学図書館のシステム化』紀伊国屋 1981）

我々は端末館における開発をできるだけ少くすることと，ローカルバリエーションを少くすることを念頭におき，パッケージシステムを採用した。しかし，予算管理のように独自性の強いものは止むを得ず標準機能にユーザープログラムを組込むことで対処した。

システム構築に際し，留意した点は以下のとおりである。

㊶オンライン接続が容易

㊷メニュー指示

㊸ファンクション・キー方式の採用

㊹有効なデフォルト機能

㊺HELP 機能

㊻促進メッセージによる指示

㊼明確なメッセージ

㊽単純，論理的，記憶容易なコマンド

㊾危険な処理のプロテクト

㊿処理時間の予測

㊽処理過程の表示

㊽業務の中断，続行，終了が容易であること

2) ハードウェア構成とネットワーク

なお，閲覧貸出システム用機器 FACOM V-830 は割愛した。

学術情報
センター

コンソール

近畿北部地区国立大学図書館ネットワーク (昭和62年4月現在)

FACOM
M-340

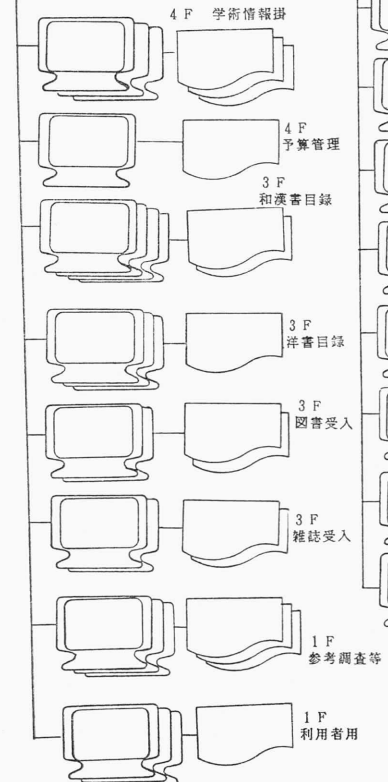
開発用端末

ディスク

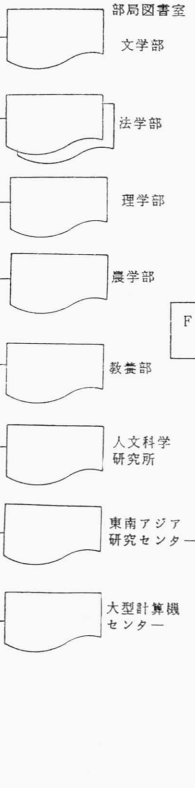
日本語
ライン
プリンタ

ライン
プリンタ

磁気テープ



専用回線 (NTT)



FACOM
K-270

コンソール

ディスク

カセット
スリーマ

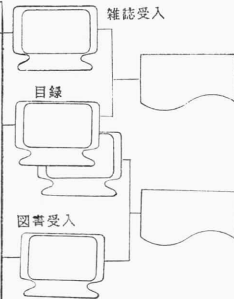
ライン
プリンタ

OCR

利用者用

専用回線 (NTT)

滋賀医科大学



FACOM
K-270

閲覧管理

ディスク

カセット
スリーマ

ライン
プリンタ

バーコード
リーダー

3 サブシステムの機能

京都大学図書館機械化システム概念図

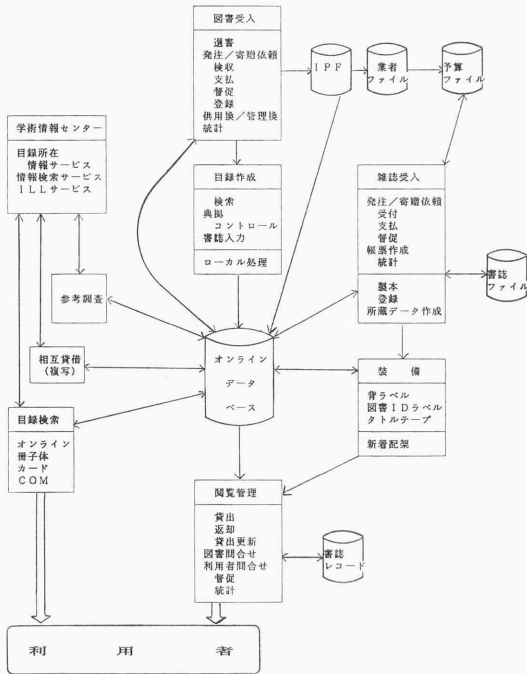


図-②

1) 図書受入サブシステム

図書受入サブシステムは選書，発注，検収，支払準備，受入，帳票出力，IPF 転送に分けることができる。各々の業務中，ローカルで動作するものと，必要に応じてホストと接続して処理を行うものがある。ローカル処理した後 IPF (処理中ファイル) はホスト側に転送する。

本学では，選書用に図書の出版と書誌データ入手のタイムラグが少ないニッパン MARC を使用している。ニッパン MARC (Machine Readable Catalog) とは，全国約3000社におよぶ出版社が1日平均約130点刊行する新刊図書を発売5日前に入手し，その書誌データを電算機で処理できるファイルとして作成，販売しているもので，1977年の新刊から入力を開始，現在約30万件の蓄積がある。この MARC から分野別リストを作成し，選書ツールとして利用している。

利用者が直接検索することはできないが，こ

の MARC データと発注申図書の書誌データを検索することができる。

***** 業務用検索 *****

*処理名を番号で入力し、入力キーを押して下さい。====>_

1. 図書目録データベース検索 (和)
2. 図書目録データベース検索 (洋)
3. 雑誌目録データベース検索 (和)
4. 雑誌目録データベース検索 (洋)
5. 外部 MARC データベース検索 (和)
6. 外部 MARC データベース検索 (洋)
7. 受入データベース検索 (和、単行書)
8. 受入データベース検索 (洋、単行書)
9. 受入データベース検索 (和、継続図書)
10. 受入データベース検索 (洋、継続図書)

[終了]

受入データベース検索 (和、単行書)

検索タイプと検索値を入力し、検索キーを押して下さい。

検索タイプ: _____ (入力キーを押す)

検索値: _____ (入力)

AND 検索値: _____ (入力)

1. 書名
2. 著者名
3. 出版者
4. ISBN
5. ISSN
6. 書名&著者名
7. 書名&出版者
8. 著者名&出版者

検索結果件数: _____ 件

[検索] [一覧] [詳細] [終了]

図-③ 業務用検索画面

このサブシステムが利用者にもたらす効果には次のようなものがある。

- ④ タイムラグの少ない出版情報が入手できる。
- ⑤ 発注情報の検索ができる。
- ③ 未納督促処理が容易にできる。特に継続図書の督促に効果がある。

2) 雑誌サブシステム

① 予約/発注

発注データ登録

発注データ修正

- 発注取消
- ②受付
 - 受付記録
 - 欠号督促
 - コンテンツ配布
 - 受付記録送信
- ③精算処理（前金払外国雑誌）
 - 精算データ入力
 - 解約データ入力
 - チェックリスト出力
- ④支払
 - ブロック作成
 - ブロックの修正／解除
 - チェックリスト出力

- 「物品命令書」出力
- ⑤製本
 - 製本準備
 - 製本発注
 - 製本検収
 - 製本登録
- ⑥帳票出力処理

雑誌の数は近年著しく増大し、その利用範囲も広い。このため、我が国でも外国雑誌センター構想にみられる集中的かつ網羅的な雑誌の収集を進め、利用者に提供する方策が検討、実施されている。本学の雑誌システムと学術情報センターシステムとの関係を図示すると次のようになる。

雑誌処理業務の概要

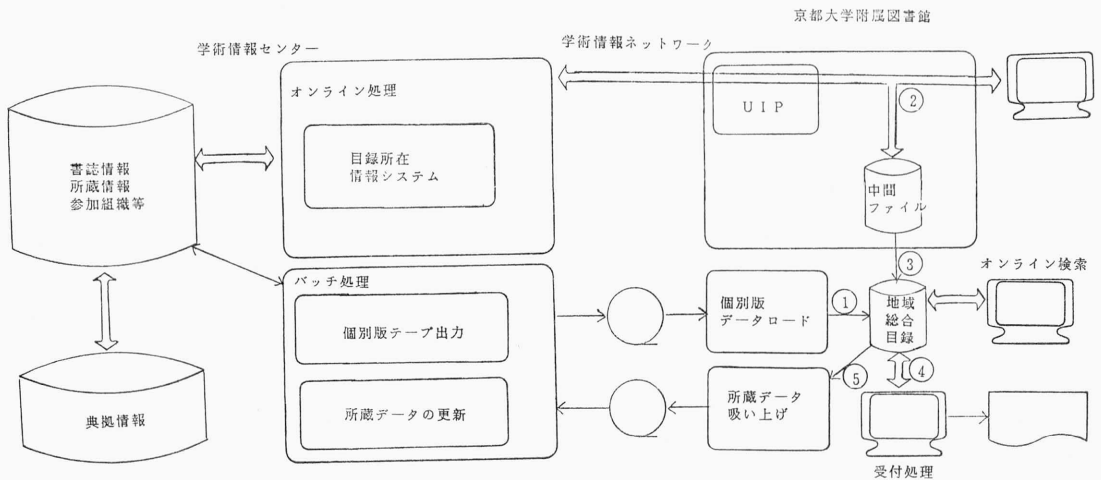


図-④

このサブシステムが利用者にもたらす効果には次のようなものがある。

- ③受付情報のオンライン検索が可能となり、最新情報が入手できる。
- ④全学あるいは全国レベルの雑誌所蔵情報のオンライン検索が可能となる。
- ⑤文献複写の申し込みがオンライン処理できる。
- ⑥これをファクシミリと連動させることによ

り、文献の入手がより迅速かつ容易となる。

3) 目録サブシステム

目録サブシステムでは、先に述べたように学術情報センターの目録システムを稼働させ、センターに登録すると同時に本館のホストマシンにもとり込む形態を採用している。とり込んだデータを利用してカード体および冊子体目録を作成することになる。これを図示すると次のとおりである。

目録作成処理業務の流れ

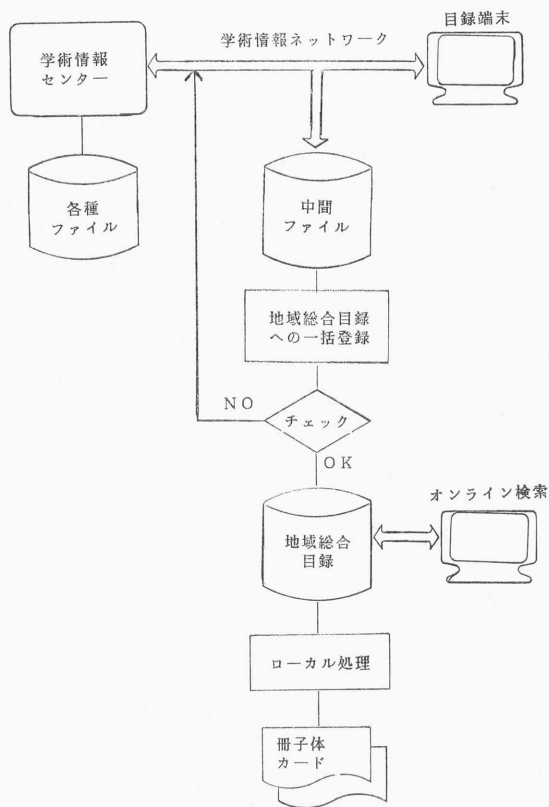


図-⑤

このサブシステムが利用者にもたらす効果には次のようなものがある。

- ① 學術情報センターのデータベースがオンラインで検索できる。
- ② 近畿北部地区のネットワークに加盟する館の地域総合目録がオンラインで検索できる。
- ③ カードレス指向ができ、カード編成業務がなくなる。
- ④ 書誌情報の標準化が行われ、検索が容易となる。
- ⑤ 重複調査の処理が迅速化される。

4 今後の課題

1) 図書受入と目録の連動

当初の計画では発注あるいは検収時に入力したデータを目録作成時に流用するよう設計して

いた。しかしこれはローカルで目録作成を行うときのみ有効で、學術情報センターシステムに目録登録する際は次の理由により現時点では困難である。

④ 典拠レコードの作成が必要であること。

⑤ ローカル側にとり込める情報が、画面表示されたものに限られること。

従って、現在検討している方法の1つは、受入業務実行時に學術情報センターシステムを利用することである。とにかくローカルロード機能をもった UIP Case 3 をできるだけ早い時点で実現できるように検討中である。

2) ソフトウェアの問題

画面展開を端末側に依存している本学システムの問題点の1つは、画面展開時のデータ表示に要する時間である。學術情報センターへの登録時の画面展開数は計測の結果、平均15~16回であることが判った。昨年7月目録端末を FACOM 9450-Σ にレベルアップすることにより、かなり改善されたが、さらに、現在事務用 Basic で処理しているものを可能な限りアクセシブラにするなどの対策を講じる予定である。

3) ハードウェアの問題

現在、学内と端末校あわせて39台の端末と2台のミニコンピュータがホストマシンに接続されている。近年、學術情報ネットワーク形成は急テンポで進められており、昭和62年度にも新たに接続を予定している端末校もある上、学内での動向を考慮すると回線接続装置(最大64回線)およびディスク容量の増強が急務である。

5 おわりに

以上、本学での電算機導入経過および、システムの概要を述べたが、現在は第一次開発を終り、フレンドリーシステムへ向って第二次開発を行っている段階である。ILIS は多数の端末を接続する場合や、共用システムには有効であるといえる。次号以降にサブシステムの詳細にあわせて、今後の予定も順次紹介できればと考えている。

◀「特殊コレクション」巡り ②▶

農学部『松原文献』

先日テレビ・ニュースで、日本人学者が世界で初めて、生きて動いているシーラカンスのビデオ撮影に成功した旨、報道していた。この放映を見て、同時に連想したのは、松原教授のことであった。先生はシーラカンスの鱗を、発見者の J. L. B. Smith 博士から、日本ではじめて送ってもらった方で、その鱗は今も研究室に保存されている。

ところで、農学部には『松原文献』と称されている別置コレクションがある。これは、京都大学農学部水産学科で水産生物学講座（現称）の担当教授であった、松原喜代松先生が主に魚類の分類学的研究の必要上から、自ら収集された文献集成を、同教授の逝去後遺族の御了解のもと一括して農学部図書室に保存し、利用に供することとしたものである。

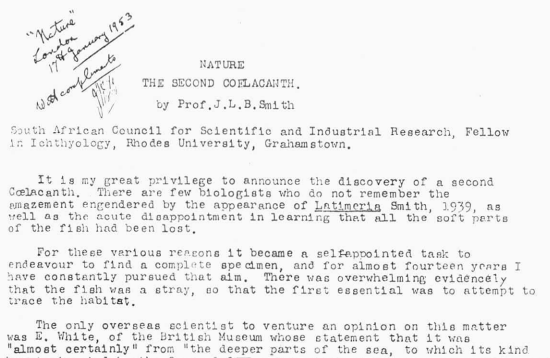
先生は、明治40(1907)年宝塚にお生れになり、昭和4年に農林省水産講習所養殖学科を卒業。昭和18年同所教授就任、昭和22年新設された京都帝国大学農学部水産学科第4講座担当教授として、招かれた。先生は昭和4年に、日本近海の魚類採集のため来日した Michigan 大学教授 Carl L. Hubbs 博士のガイドをつとめるうちに、Hubbs 教授の影響を受けて、魚類の分類学的研究に志ざされた。

分類学の研究には多数の関連文献が必要であり、水産講習所では、先生が初めて魚類の分類学的研究を手がけられた故、同所には未だ文献があまりなく、文献の収集には大変御苦労された。現在のように複写機の発達していない時代なので、東大の図書館で文献を手書きで写したり、私費を投じて外国の古書店から購入されたりして文献を収集された。主として太平洋、インド洋の魚類に関する文献を中心に収集されたが、勿論全世界の魚学に関する主要文献を鋭意収集するよう努力された。戦前フィリッピンの魚類を研究するため度々日本

に立ち寄った Washington 大学教授 A. Herre 博士は、松原教授の御苦労を知り、その収集に協力された。大戦中は東京の自宅の庭に穴を掘って文献を木箱に入れて埋め、戦火から護られた。戦後 Hubbs 博士と Herre 博士はいち早く松原教授の消息を尋ねてきて、戦争で中断していた海外との交流が再開されることとなった。南アフリカの J. L. B. Smith 教授は、生きた化石と言われるシーラカンスの発見者として有名であるが、戦後多数の文献と共に1938年に発見したシーラカンスの最初の標本の鱗を送ってきた。

このようにして収集された文献の中には、日本では容易に見ることのできないものも含まれていて、魚類の分類学的研究上貴重な存在となっている。分類学という学問の性質上、その文献の生命力は永く、他の学問分野（特に先端分野）のように文献の寿命が短く、「半減期」と称する指標があるといわれているのは正反対に、むしろ半永久的な寿命がある。

松原文献には、下記のような文献が含まれている。これらのうちには、上記の Hubbs, Herre, Smith の各博士から送られたもの他に、先生の門下生が手分けして原著論文からタイプしたものもある。このタイプ版の論文を見ると、終戦後一時期の先



学諸氏の努力ぶりに、驚きの目をみはらざるをえない。また、著者自身からタイプ原稿が松原教授に直接送られた例もあるようである。例えば、写真①のタイプ原稿には、左肩に著者の献呈の辞とサイン、掲載誌「ネイチャー」の年月日がある。これは、スミス博士が同誌に投稿し、受理されて掲載号が決まった時点で、同博士が先生にそのタイプ原稿の一部を送ったのだらうと推測される。

モノグラフでは、以下のものが重要であろう。

- #1 Alcock, A. : A descriptive catalogue of the Indian deep-sea fishes in the Indian-Museum, being a revised account of the deep-sea fishes collected by the Royal Indian Marine Survey Ship Investigation.
- #522 Boeseman, M. : Revision of the fishes collected by Burger and von Siebold in Japan.
- #28 Franz, V. : Die japanische Knochenfische der Sammlungen Haberer und Doflein.
- #35, 36 Goode, G. B. and T. H. Bean : Oceanic ichthyology, pt. 1-2.

雑誌論文では、以下のものが重要であろう。

- H. W. Fowler の一連の論文。
 - A. W. Herre の一連の論文。
 - D. S. Jordan の一連の論文。
 - C. L. Smith の一連の論文。
- 上記は、各著者につきほとんど完璧に網羅されている。
- #310 Schmidt, P. : Fishes of Japan, collected 1910. (Trans. Pacific Comm. Acad. Sci. U. S. S. R., 2)
 - #320 Soldatov, V. K. and G. J. Lindberg : A review of the fishes of the sea of the Far-East. (Bull. Pacific Sci. Fish Inst., 5)

夕刊 一月 1950 師: 22

南阿から古代魚の鱗

三億五千万年前

海越えて結ぶ二教授の友情



（須磨）魚類分類学の権威 須磨 名彦氏から松原龍雄氏が採集した南阿から古代魚の鱗が、ついに南阿から松原教授に届いた。松原教授は、この鱗を、アイムスターのロクスス教授まで、研究の道へ送った。

松原博士は、この鱗を、アイムスターのロクスス教授まで、研究の道へ送った。松原博士は、この鱗を、アイムスターのロクスス教授まで、研究の道へ送った。

アイムスターのロクスス教授は、この鱗を、アイムスターのロクスス教授まで、研究の道へ送った。

アイムスターのロクスス教授は、この鱗を、アイムスターのロクスス教授まで、研究の道へ送った。

アイムスターのロクスス教授は、この鱗を、アイムスターのロクスス教授まで、研究の道へ送った。

京都新聞 1950. 07. 22

現存する一億年前の魚

京大松原博士へ南阿からウロロコが届く

「一億年前の魚の鱗が、ついに南阿から松原教授に届いた。松原教授は、この鱗を、アイムスターのロクスス教授まで、研究の道へ送った。」

「一億年前の魚の鱗が、ついに南阿から松原教授に届いた。松原教授は、この鱗を、アイムスターのロクスス教授まで、研究の道へ送った。」

「一億年前の魚の鱗が、ついに南阿から松原教授に届いた。松原教授は、この鱗を、アイムスターのロクスス教授まで、研究の道へ送った。」

②

これらは、題名からも察せられるように、日本近海の魚類に関するものに限らず、アフリカを含むインド洋から西太平洋(インド・太平洋という)にわたる広い海域の魚類が対象となっており、日本の魚類の研究には、それらが必要だと言われている。また、魚類分類学の分野でも日本の研究者による日本の魚類の研究が始まる前に、19世紀から外国人による研究業績が多くあり、それらが不可欠のものとなっている。これらの外国文献を含む『松原文献』はこの分野での貴重なコレクションと言えるであろう。

なお、利用に関しては、他の通常の文献と同様に閲覧できるが、貸出しに関しては、多少の制限

がある。

追記

松原先生の著書の主なものには、以下のものがあり、これらは『松原文献』を駆使して著されたものであろう。

『日本産魚類検索』共著, 三省堂 1938 (昭18)
『日本産魚類文献目録 1612~1950』共編 1953

(昭28)

『魚類の形態と検索Ⅰ~Ⅲ』石崎書店 1955 (昭30)

『動物系統分類学 9 (上・中)』中山書店 1963 (昭38)

『魚類学 上・下』共著, 恒生社恒生閣 1965 (昭40)

昭和61年度 特別図書選定リスト

図 書 資 料 名	巻 号	刊 年	備 付 部 局
Philosophical Studies Series in Philosophy. Ed. by W. Sellars & K. Lehrer. (哲学研究叢書)	Vol. 14-31	1978 - 1986	文 学 部
History and Historiography. Ed. by Robin W. Winks. (歴史学の思想と方法)	vol. 1-31	1984 (Reprint)	〃
近世文学総索引 近松門左衛門 (I期)	全 6 巻 別巻 1	1986	〃
Tibetan Religious Works ; P.L. 480 and SFC Collections. The Institute for Ad- vanced Studies of World Religions. (チベット蔵外文献)		1986	〃
明治前期地誌資料 明治前期全国村名小字調査書 1-6 巻 地方要覧 他 1 巻	全 6 巻 別巻 1	1986	〃
回教圏	第 1 巻 1 号 - 第 8 巻 9 号	1986 (Reprint)	〃
A Journal for the Promotion of Leadership in Education. (教育における指導性増進のための雑誌)	Vol. 17-25	1934 - 1943 (Reprint)	教育 学 部
日本児童問題文献選集 第 2 期, 第 3 期	第2期 : 13-24巻 第3期 : 25-36巻	1984 - 1985	〃
教育索引 国立教育研究所附属教育図書館編	第 1 巻 - 第 8 巻 (第 1 号 - 76号)	1985 (Reprint)	〃
The Earliest Laws of the Original Thirteen States. (初期米国州法集成)	13 titles in 20 vols.	1981 (Reprint)	法 学 部

図 書 資 料 名	巻 号	刊 年	備 付 部 局
Third United Nations Conference on the Law of the Sea. (第3次国連海洋法会議文書集)	Documents: Vol. 8	1986	法 学 部
Federal Regulation of International Business. Ed. by S.S. Malawer. (国際商取引の連邦規則)	5 vols.	1981 - 1983	〃
National Reporter System. Atlantic Reporter, North Eastern Reporter, Southern Reporter, South Western Reporter, etc. (全米判例体系)		1985	〃
Journal of European Economic History. (ヨーロッパ経済史雑誌)	Vol. 1-12	1986 (Reprint)	経 済 学 部
全国短期大学紀要論文索引 '80-'84 図書館科学会編	1巻 - 6巻	1986	〃
銀行通信録	42巻 - 56巻 (192号 - 236号)	1985 - 1986 (Reprint)	〃
初期日本蘭仏独露語文献集 (神田外語学院所蔵)	Microfilm 34リール	1985	附属図書館
I. B. Z. Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur. (国際学術雑誌記事索引)	Vol. 21	1985	〃

昭和61年度 学生用図書 (高額図書) 選定リスト

I. 継続図書

1. 複数分野

OECD Publication. (経済協力開発機構出版物)

Bibliographic Guide to Government Publications. (政府出版物ガイド・ブック)

国際連合・国際機関主要国統計

2. 社会科学

有価証券報告書総覧 (第1部上場)

3. 自然科学

Sadtler Spectra. (サトラー研究所——スペクトル分析)

Infrared Grating. (赤外分光分析——回析格子)

Infrared Prism. (赤外分光分析——プリズム)

II. 単年度購入図書

1. 人文科学

U. S. Congressional Publications, Education and Labor, 1970-1985.

(米国議会教育労働委員会刊行物)

2. 社会科学

Annalen der Preussischen Innern Staatsverwaltung. Vol. 1-23 (1817-1839)

(プロイセン国内行政年報)

Crime and Punishment in England, 1850-1922.

(英国の犯罪と刑罰)

Federal Register Annual Subject Indexes, 1936-1983.

(米国官報主題別年次索引)

Texas International Law Journal. Vol. 1-17 (1965-1982)

(テキサス大学ロー・スクール国際法研究誌)

Verhandlungen der Deutschen Verfassunggebenden Reichsversammlung zu Frankfurt am Main.

Bd. 1-6 (1848-1849)

(フランクフルト憲法制定議会審議録)

3. 自然科学

Advances in Experimental Medicine and Biology. Vol. 173-197 (1984-1986)

(実験医学・生物の進歩)

Carbon-13 NMR Spectral Data. 4th edition.

(炭素 13NMR スペクトル・データ集)

Encyclopedia of Materials Science and Engineering.

(材料科学・工業大百科)

Casati, P. F: Fabrica et Uso del Compasso di Proportione.

(カサーチ 「計算器の作製と用い方」 1664年初版)

National Ocean Survey, World Aeronautical Charts.

(世界航空地形図)

昭和60年度 蔵書統計

(昭和61年3月31日現在)

部局名	種別	増加数			累計		
		和書冊	洋書冊	計冊	和書冊	洋書冊	合計冊
図書館	書	4,918	866	5,784	433,550	213,795	647,345
文学部	学	5,985	5,338	11,323	400,345	253,053	653,398
教育学部	学	1,943	1,332	3,275	48,293	38,993	87,286
法学部	学	2,769	4,221	6,990	198,500	265,523	464,023
経済学部	学	2,912	2,329	5,241	170,589	171,982	342,571
理学部	学	520	3,298	3,818	36,955	174,359	211,314
医学部	学	956	1,735	2,691	36,828	91,358	128,186
病院	院	51	157	208	11,590	22,218	33,808
薬学部	学	235	993	1,228	8,374	20,172	28,546
工学部	学	1,745	4,959	6,704	122,362	207,206	329,568
農学部	学	2,245	1,876	4,121	149,090	128,851	277,941
農場	場	0	0	0	1,055	111	1,166
演習林	林	210	46	256	8,064	3,012	11,076
教養部	部	6,490	7,408	13,898	248,898	204,638	453,536
化学研究所	所	75	702	777	7,401	27,693	35,094
人文科学研究所	所	8,588	1,069	9,657	354,220	49,944	404,164
結核胸部疾患研究所	所	23	187	210	1,546	3,366	4,912
原子エネルギー研究所	所	96	416	512	4,335	10,275	14,610
木材研究所	所	91	119	210	4,708	4,295	9,003
食糧科学研究所	所	46	296	342	3,709	8,150	11,859
防災研究所	所	137	726	863	7,810	16,611	24,421
ウイルス研究所	所	18	93	111	378	8,864	9,242
経済研究所	所	885	912	1,797	30,171	22,458	52,629
基礎物理学研究所	所	596	1,630	2,226	3,752	26,879	30,631
数理解析研究所	所	205	1,608	1,813	4,758	53,836	58,594
原子炉実験所	所	198	1,945	2,143	13,196	23,960	37,156
霊長類研究所	所	82	396	478	2,783	6,815	9,598
東南アジア研究センター	センター	403	2,604	3,007	10,907	32,999	43,906
大型計算機センター	センター	76	376	452	678	4,413	5,091
ヘリオトロン核融合研究センター	センター	14	134	148	746	1,604	2,350
医療技術短期大学部	部	1,818	1,258	3,076	14,681	3,187	17,868
放射線生物研究センター	センター	2	31	33	201	1,098	1,299
情報処理教育センター	センター	1	35	36	223	387	610
本部	部	0	0	0	5,116	575	5,691
医用高分子研究センター	センター	18	66	84	96	113	209
環境保全センター	センター	47	17	64	344	31	375
超高層電波研究センター	センター	21	204	225	453	1,996	2,449
合計		44,419	49,382	93,801	2,346,705	2,104,820	4,451,525

本部：庶務・経理・施設・学生各部および保健診療所・保健管理センターを含む。